

28

0484

Outline Operations
 of
 the 33d Naval Special Base Force
 by
 Ex Capt(Navy) SHIGAKI; Kenkichi

第三十三特別根據地隊戰鬥經過概要

116
 7
 7
 11

元第三十三特別根據地隊主任參謀

海軍大佐 志柿謙吉

19-1
C-2

0480

41-1

33 aBq

東斗全過概要

33 aBq

先任参謀

志柳謙吉

(第三十三特別根據地隊戦闘情況別冊)

第三十三特別根據地隊戦闘経過概要

昭和十九年八月経過概要

日

記事

五 第三十三特別根據地隊編制令発令

同司令部職員命令

十八 全右横濱奔進出(航空便)

全右マニラ着

司令部ニ於テ打合セテ行フ

全右セブ着(航空便)

横橋上舊税関ニ付旗ヲ掲グ

司令部ヲ「マング」通 舊水交社ニ移ス

各部隊巡視監視

司令部山海軍砲術学校長以下現地指導班着

復員省

備考

「レガスピ」派遣隊長佐藤中佐着任

33 哨司令部要員及本部警備隊

吳ニ於テ編制待候（一部ハ第三十六警備隊ヨリ分割補充）

「タクロボン」派遣隊

「レガスピ」派遣隊

吳ニ於テ編制待候

九八防空隊（長柳原中尉高田隊）

館山海軍砲術学校ニ於テ編制待候

復員省

昭和十九年九月経過概要

日 記 事

三 原田司令官志柿先任参謀現地指導班ト共ニ「タクビン」
着(航空便)

各部隊巡視経視察 16Dト現地作戦協定ヲ行フ

四 今右「タクビン」着「レガスピ」着 (航空便)

「レガスピ」派遣隊長佐藤中佐着任

各部隊巡視経視察 現地陸軍旅团长ト現地作戦協定ヲ行フ

五 原田司令官「タクビン」帰着(航空便)

志柿先任参謀 現地指導班ト共ニ「マニラ」着(航空便)

六 一三。頃「バオ」敵上陸ノ報アリ

復員省

22sf マミラヨリ「セブ」ニ進出

二一〇。頃志柿先任参謀セブ「帰着」(22sfニ使乗)

十 「ガバオ」敵上陸ハ誤報ナリレコト判明

十一 22sfノ大部「セブ」奔「マミラ」ニ帰投

十二 敵KAB中部菲島地区大空襲 被害甚大

十三 人2名

「セブ」戦果 地上砲火ニヨリ約十機撃墜

被害 在泊艦艇陸上諸施設殆んど潰滅

飛行機約八十機中約五十機焼失又ハ被撃墜

「バコロド」戦果 地上砲火ニヨリ二三機撃墜

被害 在泊艦艇及陸上諸施設殆んど潰滅

十四 敵KAB「スリガオ」地区大空襲 被害甚大

市街地ノ過半焼失在泊艦艇行舟艇全部沈没

復員省

十八

当隊麾下部隊マニラ着

十九

人魚大部及搭載物件一部物陸

二十

在マニラに離散ニ避退下令

二十一

マニラ地区大空襲 当隊麾下部隊甲兵器物品全部焼失又ハ沈没

二十四

敵マニラ島東方海面ニ出現「セグ」ブーラン「レガスピ」地区ニ来襲

戦果 不明ナルモ殆ンドナシ

被害 避退中ノ船艇被害甚大

復員省

昭和十九年十月経過概要

記事

日

上旬

一、スルアン島見張所より敵潜水艦出沒ノ報頻繁
 二、在「セブ」水上機隊ニ依頼因方面偵察攻撃ヲ実施
 一、スルアン島見張所ヨリ左ノ報告アリ

中

東方水平線上敵艦ヲ見キ煤煙見ユ
 敵空母ニ発着艦スルヲ飛行機ヲ認ム
 二、敵機「セブ」北方海面ニ出沒機帆船ヲ以テ進出中ノ態
 下部隊被害甚大

旬

三、在「セブ」ハ「サンボアン」ガ行板高ニ由リ機帆船ヲ「セブ」
 「ロバン」ニ送付(成功)
 四、「セブ」ハ「ロバン」派遺隊長竹谷大尉第三十六警備隊司令竹
 下大佐着任夫々任地ニ白ケ赴任

復員省

十八

十四(?) 藤城村以下約十五名十四種砲二門(?)其他若干

先奔隊トシテ「マニラヨリ」ヲタクロバンニ着(極帆船使)

十六(?) 先奔隊トシテ「マニラヨリ」ヲタクロバンニ着(極帆船使)

先奔隊トシテ「マニラヨリ」ヲタクロバンニ着(極帆船使)

先奔隊トシテ「マニラヨリ」ヲタクロバンニ着(極帆船使)

先奔隊トシテ「マニラヨリ」ヲタクロバンニ着(極帆船使)

先設遊島隊(中佐片相敏朗)「オレモツ」飛行場設置中止

「タクロバン」ニ進出 其ノ村山所「カヒネ」岬ニ ④ 基地

設置ヲ開始ス

十七 敵「スパン」島上陸 「レイ」湾掃海開始

「タクロバン」派遣進隊ヲ第十六師團長ノ指揮下ニシテ

GF捷一号外戦遂行

GF捷一号外戦奔動

復 日 告

十九

三三六皇司令大佐竹下直豊以下約八十名秘航船及大発ヲ以テ「ムコロ」ヨリ
ヲ「クロバン」ニ進出申「ロビ」島（レイテ島北方）沖ニテ爆撃ノヲ令介況
汝又ハ破壊司令戦死乗取「ロビ」島上陸（後約半日後「ロビ」収容）

一「レイテ」湾東方ニ敵攻略奇隊出現

潰滅

二十

一敵KB「レイテ」島大爆撃手

二敵ハ艦砲接獲射撃下ニ「ク」ロバン「ド」ラグ「地」区ニ
上陸開始

上陸開始

「ク」ロバン「地」区防衛ヲ担当セル海軍部隊ハ逐次後退

上中街地帯表山降地ニ據ル

二十一

「ロ」ガスピ「派」遣隊ハ「サン」ベル「テ」ル「ガ」ノ「海」嶽島ニ点燈

魚雷艇ニ復日海峡巡弋

二十四

「YB」「レ」ブ「ヤ」ン「海」ニ於テ敵KBノ攻撃ヲ受テ「夜」間東

進夜間「サン」ベル「テ」ル「ガ」ノ「海」嶽通過

二十五

「YB」「サ」ール「島」東方海面ニ於テ敵空母群ト遭遇交戦

二十三

「オ」モ「ロ」シ「瑞」瑞接助ノヲ秘航船一大発ニ「M」重佐機ニ「ク」ロバン「地」区進出



(第十六師団「サール」派遣隊日記)

二、118別動隊「スリ」が「オ」海峡「ラ」レイ「テ」湾に敵攻略部隊
ト交戦山城扶桑大火災(山城飛行長聖朝「セ」山着

報告)

三、165「カ」ガヤン「ヨ」リ「オ」レ「モ」ツ「ク」ニ陸兵輸送隊功(第十六師団

一部)

二十六

敵「ロ」イ「テ」上陸部隊「ハ」タ「ク」ロ「ボ」ン「ド」ラ「グ」地区ニ橋頭堡
ヲ設ケ戦果擴大中

二十七

敵「ロ」イ「テ」後我空戦熾烈

「オ」ル「モ」ツ「ク」揚塔援護ノ為機帆船一大を「三」電候林
たむ「セ」グ「ル」

二十九

敵「KB」マ「ニ」ラ「ク」ラ「ク」地区空襲

「カ」ン「ベル」タル「ゲ」ノ海峡ノ点燈ヲ止メ警戒ヲ解ク

復員省

下 句

魚雷艇ニ復被弾火災

三ノオルモツクト通信可能

一ノ甲標的田邊輸送艦ニ復ニテラセグシ着

ニ此頃「ネグロス」島南東端「アマゲテ」ニ魚雷艇着

甲標的前進基地設定

系此頃「ヒル」艦中「雷隊」隊員「弟」等十特別

根據地隊編入

復員省

昭和十九年十一月経過概要

記

事

及260先遣支隊

- 一 日
多号第二作戦(第一師団輸送)「オレモック」突入成功
第二五軍司令部警備多号第二作戦部隊ノ
輸送船一隻「オレモック」進出
海軍司令部「セブ」島海陸軍部隊ノ指揮ヲ執
第一師団ハ直ケニ「カリガラ」ニ向ケ北上
- 二
同地方面空襲頻數
- 三
「マニラ」バタングス敵艦上投未成
- 四
「TM」電信校ヲ「オレモック」ニ揚陸海陸軍ノ通信担当
「オレモック」揚格援助中ノ舟艇「セブ」帰着(日?)
- 五
「ロス」島全域空襲
- 六
「オレモック」揚格援助ノ舟艇三隻再反「セブ」

復

八	<p>多子第四次作戦 (P15d dx6 chxT x3) ニニ。頃ッオルモツク突入 人員之掃匿 (260 主力?) 多子第三次作戦 (P22d 島風、浩波 Wx1 chx1 Tx5) 計画 170ノ大部ノスル海又ハ「ミシジク」ノ海ニ進出間接援護</p>
上	<p>一 初頭ヨリ兼甲標的ヲ以テ「カガオ」水道南口哨戒 二 阜一、魚雷艇ニヲ以テ、第ニ、五軍ヲ参謀長和知中将 以下軍幕僚ヲ「オルモツク」ニ送リ、帰途「カガオ」島 北方ニ在リ、敵魚雷艇五隻ト交戦、集一沈没、第ニ、 三魚雷艇隊司令丹羽少佐戦死</p>
十一	<p>多子第三次作戦部隊空襲ニヨリ「カガオ」附近ニテ 潰滅(柳原少佐) (260 整備軍幕員、軍直打隊?) 10「カガオ」シ、急攻撃ノ成功ニ至ラス</p>
十八	<p>「カガオ」水道北口「ベト」西方海面ニ機帆船ニ隻ヲ以</p>

復員省

中

旬

ヲ二回ニ亘リ極高敷設

ニ極高敷設ノ為甲標的ノカニガオレ水道哨戒ヲ止メ

一併後ヲ「アト」諸島ヨリ「オレ」沿岸ニ至ル索

敵艦沿岸敵情偵察實施

三、在「セ」水上機隊為隊作戦指揮下ニ入ル

陸上機隊ト協力「カ」ヲ「海」索敵攻撃

實施

四、此頃當隊司令部ヲ市政府裏山ノ横弘附近

ニ移ス

五、第五十五軍司令部ト第十六師団ト連絡取リ

同師団ハ「コ」ヤ「シ」山東側ニ陣地占領致存兵力

約一五〇〇（第五十五軍冬謀渡辺中佐談）

六、多年第二次又ハ第四次作戦本部隊ニテ海軍防空隊

復 具 省

二十人	二十七	二十六	二十	中 旬
<p> (十三程校銃)一隊及山根大尉「オレモツ」着 山根大尉「オレモツ」海軍通信隊長ヲ命ズ セ「オレモツ」派遣隊長竹谷大尉以下約九。(?)「オレ モツ」ニ後退ヲ命ズ「オレモツ」同日相着海軍防空隊ヲ指 揮ス ハ「オレモツ」水道(カゴ)島「オレモツ」島間(南口)ニ校 雷敷設 多ク年ノ第五次作戦(輸送)「オレモツ」島東山行「オレモツ」 ンガシ海ニテ素向還避泊中空襲被ヨリ沈没人物 件稀陸 和号作戦(ロイヤ)飛行場大奪回作戦)ニ移行 我「オレモツ」空襲被敵執力封止ニ至ラス 第六次多ク年作戦成功 </p>				

復員省

	<p>旬下</p>	<p>三十一</p>
<p>三上特別根拠地隊ニ編入セラル</p>	<p>此頃第三十三特別根拠地隊が魚雷艇ヲ當隊ニ 艦下ニ編入セララルモ途中ノ消耗多ク僅カニ 一隻ノミヲゾマゲテレ經由セゾ着</p>	<p>第七次多年ノ作戦 (SSX3 16X2) 1イポール突入成功 (オレモック湾)</p>

復 員 省

昭和十九年十一月経過概要

A

記

事

二 多号第七次作戦(桑竹^敵)揚格中敵水上司令部隊(C

又ハ^敵約三隻魚雷艇数隻)ト交戦

五 第十六師団^北「アラウエシ」飛行場ニ新込突入飛

行場奪回

六 陸軍~~第...~~機^敵空挺隊「ドラグ」^南「アラウエシ」

ロビン^敵飛行場ニ降下 26D「アラウエシ」飛行場突入成功

七 早朝「オルモック」^敵「アルベラ」^敵上陸開始

ニ多号第八次作戦(dx3 Chx2 SBx1 Tx4)「オルモック」ニ突入SB及

丁揚格揚格^敵及Ch揚格途ニワケ

本件戦ニ於テ伊東徳夫少佐ノ指揮ニ海軍陸戦隊

(水陸両用戦車約五台)「オルモック」ニ

迫近戦闘

上陸直前ニ戦闘

(註)第三次世界大戦戦歴(乙)第一号ニ本外戦

ヲノミンドロニ入泊トナシテモ、敵ト混濁シテ

「オレモツク」ニ突入上陸シテモ、ノルマールヲ記憶ス物

而シテ、~~ノルマール~~ニ付本外戦ハ「オレモツク」ニ突入シ

「オレモツク」ノ誤ト認ム

三、218 出撃多動キ下命令

九

第九号輸送艦「エド」着勞甲標的ニ隻及整備

班到着

輸送艦自夜戦傷病兵在る和人居載

出港

十

敵艦隊カモトノ島南カノ中連中トノ飛行機被

撃シ、海陸軍カ隊陸戦陣地ニ就キ

「オレモツク」附近ニ敵一ヶ師上陸

復員省

上 旬

十一

一、和号作戦ハ一時成功セシ維持困難ト敵ガフオルモツクニ
 上陸セリ九日頃飛行場アリシ村空共蒼約四〇〇ヲ
 破壊シテ遂ニ放棄ス全軍カクハ北西地帯ニ集結
 自注ノ戦ハ我々全軍カクハ北西地帯ニ移ル
 二、此頃ノ敵ハ飛行場ハ敵米比軍ノ攻撃ヲ受ケ
 艦艦中ノ海軍台湾進査隊約七〇ハ玉碎（皮
 一、名ヲカクシニ逃レ報告ス）
 三、敵部隊カモアズ島南方ヲ西進中トノ飛行機報ア
 リ直ニ海陸軍中隊陸戦陣地ニ就ク（或ハ土庫向ニ
 聖朝加ハ地点符字ノ取違ニテカカガ道水道ニ向ヒ
 タレモノノ誤工ト判明配備ヲ解キ極力陣地構築
 ヲ促進ス

多年ノ第九次作戦部隊ヲカク島北部東方海面ニ於

復 員 省

十三

ヲ空襲シ受テ企圖挫折シ「サイレド」
 附近ニ沈没又ハ擱座概テ人員之上陸(6805高陸文陸)
 「ミンダナオ」島北岸「マセラゴス」湾(セブ島村山岸)ニ
 敵大船団碇泊一部揚陸中ナリ旨「ベコロ」上陸軍校
 ノ報アリ

「セブ」海軍校直上ニ出テ偵察ヲ船団ハ北又ハ北西ニ
 移動中ナリ報ス

「セブ」陸海軍部隊陸戦隊地ニ就テ可動甲標的ニ隻
 魚雷艇ニ隻ヲ以テ「ボホ」水道ヲ警戒ス

「敵船団」ハ「ベコロ」西岸ヲ北上ス(飛行校報)
 「ベコロ」地区海軍部隊ヲ陸軍是旨指揮官ノ指揮
 下ニ入ル

「セブ」海陸軍部隊ハ陸戦配備ヲ撤シ「セブ」大野ヲ

「ベコロ」上陸軍校

復員省

<p>十五</p>	<p>陣地ニ残シ急遽陣地強化促進 敵船園ヲミンドロ島ヲサンホセ上陸開始 一部ハバラン島ヲポートプリンセス上陸ニ標榜</p>
<p>中旬 二十六 三十一</p>	<p>「セ」市南方ヲサリサイ沖ニ機雷候洋波敷設 禮号外戦(CX246)ヲサンホセ突入 甲標的ニ隻及前進基地増強隊ヲゾマケラレ向 ケ「セ」上陸</p>
<p>下旬 二十五</p>	<p>初頭レイテ上陸上却隊ハレイテ島北西沖「ビリヤバ」地ニ ニ集結ニ快ス(此時ノ人員約七十名ナリ)ニアラズヤト記憶 米軍「ハロンボ」ニ上陸</p>

復員省

朝 上 旬

改修致奴

レイチ陸上舟隊ハ概ネビリヤハ地区ニ集結自派自
戦艦勢カヲトル
ヲノロバン海軍連隊及竹右衛門ハバンカー便ニ托レ
知シ司人全員ニ狀況ヲ報告セリ

復 員 省

昭和二十二年五月起稿

第三十三特別根據地隊戰闘情況

自昭和十九年八月五日
至昭和二十二年八月三十一日

第三十三特別根據地隊支分課

海軍大佐 志 林 謙 一 言

一 終戦後既ニニテ年ヲ経過シ利ハ敗戦ノ苦闘ト疲勵ニ慍ヲ

レタルヲ以テ記憶保存トシテ定カテラズル所アリ

加之作戦記録等重要資料ハ或ハ戦果ヲ蒙リ或ハ終戦時

燒却トシテ以テ頼ルベクモナシ

二 史實調査部編纂本第ニ次世界大戦略曆(乙)第一号及

第ニ十五軍参謀長及近美晴著^軍参謀長ノ手記ヲ基礎

トシテ自己ノ記憶ヲ述リテ、算稽シ僅カニ山賀守治譯キ

ニグ元報記者書ヲ参テトヒリ若干ノ誤ハ之ヲ寛恕セラレ度

ニ作戦記録モ一級ニ都合悪ク所ハ若干ノエトシテ施スリ免レズ

然レ兵斯ノヲハ将来ノ参考トシテ價値乏シク折斷^レ古ノ未

嘗有ノ敗戦ヲ転ジテ精強日本トナスノ資料價値ハ正シク

赤裸々ノ記述ヲラサレ可ク

復 員 行

目次

第一 第三十三特別根據地隊編制註進出

第二 司令部進出當時ノ中策地ニ兵力配備註其情況

一 海軍部隊ノ配備

二 陸軍部隊ノ配備

三 防備狀況

第三 作戰準備

一 司令部設置

二 施設設置防備促進

第十六師團トノ作戰協定

陸軍省ニ對シテノ地區陸軍トノ作戰協定

第四 中策地區大空襲

一 空襲前ノ情況

一頁、三、九、二、三、三、五、七、〇

復
頁
省

二 敵KAB空襲	二一
三 空襲被害ノ概要	二七
第五 中北菲地区大空襲	三七
一 北菲地区大空襲	〃
二 在マニラに墜下部隊ノ概要	三八
三 中菲地区再空襲	三九
第六 敵レイテ島未攻	四〇
一 敵未攻前ノ情况	四一
二 敵未攻	四六
第七 レイテ決戦	五七
一 陸軍レイテ決戦ニ至ル経緯	五八
二 敵ノ兵力集中情况	五九
三 我軍ノ兵力集中情况	五九

復
頁
省

第八、「ミシダナオ」海外戦

作戦準備

- (二) 海軍陸戦隊
- (ホ) 艦船遭難者
- (ヘ) 第五五雷艇隊

一、哨前進基地ノ決定設定

二、海「ミシダナオ」海外戦

第九「セブ」島ノ戦闘

一、敵匿ノ情況

(イ) レイテ戦以前

(ロ) レイテ戦以後

(ハ) 敵「オ」未攻後

二、戦闘準備

九九九三
八五四三

一〇一
一〇二

一〇三
一〇六

- ① 陸軍部/編成上陣地構築
- ② 陸軍部/編成上陣地構築
- ③ 兵巻/初月号案
- ④ 陸軍部/行準備
- ⑤ 敵未攻前/情況
- ⑥ 敵未攻前/陣地
- ⑦ 敵未攻前/陣地
- ⑧ 敵未攻前/陣地
- ⑨ 敵未攻前/陣地
- ⑩ 敵未攻前/陣地
- ⑪ 敵未攻前/陣地
- ⑫ 敵未攻前/陣地
- ⑬ 敵未攻前/陣地
- ⑭ 敵未攻前/陣地
- ⑮ 敵未攻前/陣地
- ⑯ 敵未攻前/陣地
- ⑰ 敵未攻前/陣地
- ⑱ 敵未攻前/陣地
- ⑲ 敵未攻前/陣地
- ⑳ 敵未攻前/陣地
- ㉑ 敵未攻前/陣地
- ㉒ 敵未攻前/陣地
- ㉓ 敵未攻前/陣地
- ㉔ 敵未攻前/陣地
- ㉕ 敵未攻前/陣地
- ㉖ 敵未攻前/陣地
- ㉗ 敵未攻前/陣地
- ㉘ 敵未攻前/陣地
- ㉙ 敵未攻前/陣地
- ㉚ 敵未攻前/陣地
- ㉛ 敵未攻前/陣地
- ㉜ 敵未攻前/陣地
- ㉝ 敵未攻前/陣地
- ㉞ 敵未攻前/陣地
- ㉟ 敵未攻前/陣地
- ㊱ 敵未攻前/陣地
- ㊲ 敵未攻前/陣地
- ㊳ 敵未攻前/陣地
- ㊴ 敵未攻前/陣地
- ㊵ 敵未攻前/陣地
- ㊶ 敵未攻前/陣地
- ㊷ 敵未攻前/陣地
- ㊸ 敵未攻前/陣地
- ㊹ 敵未攻前/陣地
- ㊺ 敵未攻前/陣地
- ㊻ 敵未攻前/陣地
- ㊼ 敵未攻前/陣地
- ㊽ 敵未攻前/陣地
- ㊾ 敵未攻前/陣地
- ㊿ 敵未攻前/陣地

一〇六
 一〇七
 一〇八
 一〇九
 一一〇
 一一一
 一一二
 一一三
 一一四
 一一五
 一一六
 一一七
 一一八
 一一九
 一二〇
 一二一
 一二二
 一二三
 一二四
 一二五
 一二六
 一二七
 一二八
 一二九
 一三〇
 一三一
 一三二
 一三三
 一三四
 一三五
 一三六
 一三七
 一三八
 一三九
 一四〇
 一四一
 一四二
 一四三
 一四四
 一四五
 一四六
 一四七
 一四八
 一四九
 一五〇
 一五一
 一五二
 一五三
 一五四
 一五五
 一五六
 一五七
 一五八
 一五九
 一六〇
 一六一
 一六二
 一六三
 一六四
 一六五
 一六六
 一六七
 一六八
 一六九
 一七〇
 一七一
 一七二
 一七三
 一七四
 一七五
 一七六
 一七七
 一七八
 一七九
 一八〇
 一八一
 一八二
 一八三
 一八四
 一八五
 一八六
 一八七
 一八八
 一八九
 一九〇
 一九一
 一九二
 一九三
 一九四
 一九五
 一九六
 一九七
 一九八
 一九九
 二〇〇

- (四) 中期
- (三) 後期
- 七. 転進休戦
- (二) 転進開始
- (一) 転進
- 六. 各隊行動
- 八. 第一次自決自戦
- (四) 自決自戦
- (三) 合戦準備
- 九. 第二次転進
- (二) 第一期転進
- (一) 第一期自戦

一四五
一四七
一四五
一五七
一六六
一八五
一九九
二〇二
二〇八

復
員
計

十
統
我

- (六) 第二期転進
- (七) 後方部隊の増強
- (八) 第二期戦斗
- (九) 第三次転進
- (十) 第五次自決自戦
- (十一) 第四次転進

二二二二二二
二二二二二二
一一一八三三
一一一一一〇



日本土建工業株式会社

第一 司令部
第三十三特別機隊地隊司令部主要職員出

一 第三十三特別機隊地隊司令部主要職員

司令部 少佐 原田 寛

次長 少佐 志村 謙吉

参謀 少佐 藤村 明

大尉 林 正

軍医長 少佐 久保 正 (遂着任、約三月後、佐村村実為地)

主計長 主大尉 岡田 貞寛

二 編成表

別表 附

復 員 省

三. 進出

昭和十九年八月五日編成令終主要職員分令アリ
軍令部海軍省ト打合ヒ上 同十六日横濱発

十八日マニラ着

海軍省司令部ニ於テ打合ヒ上 二十三日マニラニ進出
横濱上ノ舊海軍省ニ將旗ヲ掲グ

復員省

一 海軍部隊ノ配備

(1) 七ノ地区

第二章司令部進出當時、中森地区兵力配備並其情況

第三十六號部隊本部隊

司令 渡辺 中佐(應召)

情報上層機関内

第一三三防空隊(二十五機銃砲隊裝二千四百基)

長 佐野(特)中尉

七ノ飛行場部

第一百防空隊(二十五機銃砲隊裝二千四百基)

長 大床(特)中尉

桂橋附近(九月以降「マラソン」島陸軍飛行場ニ移ス)

第三十一潜水艇基地隊

司令 吉村 山 毅 中佐

横濱附近

軍需部支那

支那部長 柳原 立少佐

横濱附近

工外部 (ハコチ引揚船ヲモトメ)

長 那須 和 大佐

横濱北方海岸

横濱航空隊

司令 山本 繁 大佐

飛行場

水上基地

横濱港内ノ無人島

復員省

↑ 飛空隊支隊
第十七魚雷艇隊 飛行場附近

↑ 第十二魚雷艇隊 及 第五魚雷艇隊

司令 丹羽 少佐

如「北方城外」リロピン

第三艦隊 司令部

長 鈴木 大尉

「七」 飛行場

施設部

長 佐藤 大尉

「七」 市

右ノ外見張片ニ所分 如「七」島南方) 行ノミノ出飛

ヲ見合セリ (理由 現地正確ニ不通ト現地側ノ見合アリ)

台湾土木隊

如「七」飛行場表山

復 員 省

①ベコロド地区

第三十六号備隊分遣隊

東森

ベコロド市

果敢隊

「イナシアムガシ」

「タムンバシハシ」

軍需司令部隊

「ベコロド」

設営隊

「ライ」

「ヒタルバガシ」

基地航空隊

「ライ」 「ヒタルバガシ」

復員省

砲台陣地ハカトモニ固トラゲルヲロバン海岸南側ニ袖ニ陸シタル如ク占領ス(既ニ林麓ニ砲孔ヲ穴チテ陣地ヲ占領シテリ)

海軍ハ十門砲砲四門ヲ陸軍砲台陣地ノ西側ニ二門ヲ設置ス

B 海軍ハトラゲル沖ニ積雪約二十俵積リ浅深度ニ懸射砲也④基地ヲカキ出シ射砲ヲタイタイ岬(アガガ南方ニ設置ス)

C 敵上陸セバトラゲルハ口間概テ河ヲ沿ヒテ井戸ヲ東西ニ三線ノ陣地ヲ占領シテ抵抗セリ、シテロバン西方ノ複廓四陣地ニ立籠ル(抵抗線陣地ハ稍築中)

其間敵軍司令官ハヘチカミニ置ス

D 志摩海軍第十師團ハ既ニロイテニエト約一ノ半

復 日 省